

中国における教育事情の調査ならびに研究交流

1. 調査の概要

(1) 調査対象国

中華人民共和国

(2) 調査日程

2012 年 9 月 4 日（火）～12 日（水）

(3) 調査員

①野村純（千葉大学教育学部）

②高木啓（千葉大学教育学部）

③木下龍（千葉大学教育学部）

(4) 調査対象

①上海日本人学校浦東校（上海市）

②湖南師範大学（湖南省長沙市）

③北京師範大学（北京市）

2. 調査内容と成果

(1) 上海日本人学校浦東校

9 月 5 日（水）、上海日本人学校浦東校を訪問した（図 1）。上海日本人学校浦東校は、同じく上海市にある上海日本人学校虹橋校での生徒増加に対応して、2006 年に開講された小学部および中学部併設の新設校である。生徒数は、2012 年現在、小学部 796 名 25 学級、中学部 699 名 19 学級、教員数 69 名の大規模校である。本研究課題である「ラボ on the デスクに基づく東アジア普及型早期才能支援プログラムの開発」への協力校としての可能性を探るべく、同校における教育環境ならびに中国の教育事情について調査した。調査には、同校副校長の合田芳弘氏、養護教諭山本はるか氏に協力いただいた（図 2）。

上海日本人学校浦東校は、上海日本商工クラブを設置者とする私立学校の形態をとっている。その教育課程は、日本の学習指導要領に準拠しつつも、小学校 1 年生から英会話や中国語の授業を実施したり、全学年における現地校との交流を試みるなど、国際性豊かな児童・生徒を育成するために柔軟に編成されている。



図 1 上海日本人学校浦東校



図 2 合田副校長と山本教諭と

日本人学校という性質から、毎年度 200～300 名規模で児童・生徒が入れ替わるなど、教育活動における固有の困難もあるとのことだが、訪問した限り、児童・生徒の明るく活発な姿には好印象を憶えた。

教育環境については、2006 年に新設されたこともあり、施設・設備がとくに充実していた。全館冷暖房完備で木材をふんだんに使った普通教室以外にも、多くの特別教室や少人数指導のための小学習室、29,000 冊を所蔵する図書室などがある（図 3，4）。その他にも、約 20,000 m²の敷地には体育館、屋内プール、武道場、200m全天候型トラック、通学バスのための駐車場などの恵まれた教育施設が整備されていた（図 5，6）。



図 3 学校内の様子



図 4 授業風景

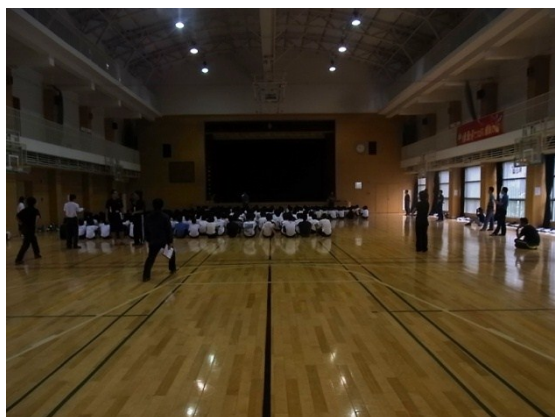


図 5 体育館

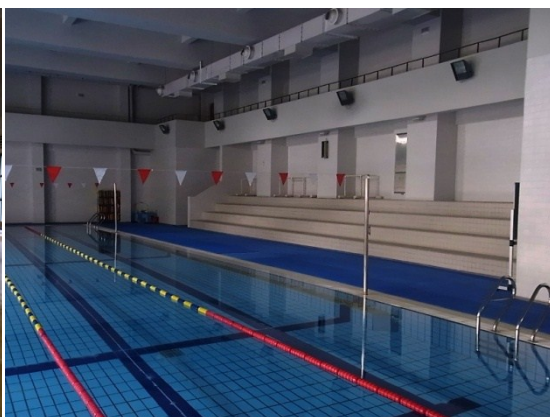


図 6 屋内プール

(2) 湖南師範大学

9 月 6 日（木）から 8 日（土）にかけて、湖南省長沙市にある湖南師範大学を訪問した。湖南師範大学は、その名称からの印象とは異なり、教育科学学院や继续教育学院などの教育部門を中心に、哲学、経済学、法学、文学、歴史学、理学、工学、農学、医学などの 24 学部をもつ総合大学である。本研究課題への協力関係を構築すべく、研究協議および施設見学を実施した。

研究協議では、教育科学学院副院長の劉鉄芳氏、同じく教育科学学院所属の汪植英氏、

辛継湘氏、高曉清氏、劉德華氏、張伯昌氏、易紅郡氏、李政云氏、姜新生氏、王衛華氏らと日中の教育事情や教員養成について懇談した（図7，8）。懇談後は、教育科学学院の博士、修士の大学院生を交えての研究交流を行った（図9）。研究交流では、日本や中国の教育事情や教育政策の現状を確認し合うとともに、教育学教育の理論と実際の乖離の問題、教育実習の位置づけなど、共通の教育課題について理解を深めることができた。



図7 湖南師範大学での懇談①



図8 湖南師範大学での懇談②

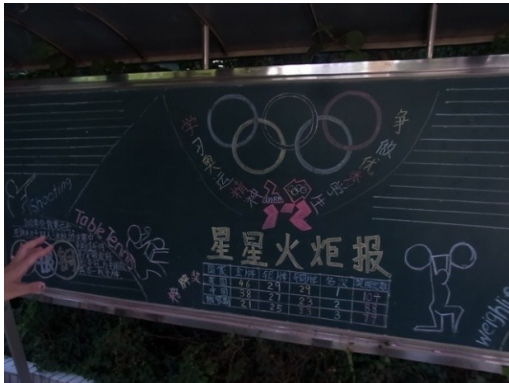


図9 大学院生との交流会

施設見学においては、湖南師範大学の1,680,000㎡にわたる緑豊かで広大なキャンパス内にある教育施設（図10）や附属小学校を見学することができた。附属小学校では、普通教室での授業ばかりではなく、総合学習における野外で学習活動や自治活動の一環として取り組んだ掲示板なども見学することができた（図11，12，13）。また、故事や児童によって書かれた漢詩が学校の至る所に配置してある点には、中国文化の奥深さを実感することができた（図14）。



図10 湖南師範大学のキャンパス



(3) 北京師範大学

9月10日（月）および11日（火）には、北京師範大学を訪問した。北京師範大学は、湖南師範大学同様、教育部門を中心とした総合大学である。しかも、教育部直属の国家重点大学であり、師範大学としては中国のトップ大学である。今回の訪問では、自然科学系の専門学部との協力関係を構築するため、生命科学学院の何大澄氏、体育運動学院の紀仲秋氏、姜桂萍氏との研究交流ならびに施設見学を実施した。



図 15 研究交流の様子①

研究交流では、野村が「創傷治癒と免疫」と題して研究成果を発表した（図 15）。発表に対しては、各専門分野からの活発な質疑がなされ、研究交流を深めることができた（図 16）。

施設見学では、生命科学学院（図 17, 18）や体育運動学院（図 19, 20）に加えて、環境学院（図 21）や化学学院（図 22）なども見学することができた。



図 16 研究交流の様子②

国家重点大学ということもあって、いずれの学院においても、その研究水準を確保するための実験施設・設備の充実を見て取ることができた。今後の課題として、こうした研究水準の高い専門学部との連携も視野に入れるという見通しをもつことができた。



図 17 生命科学学院での施設見学①



図 18 生命科学学院での施設見学②



図 19 体育運動学院での施設見学①

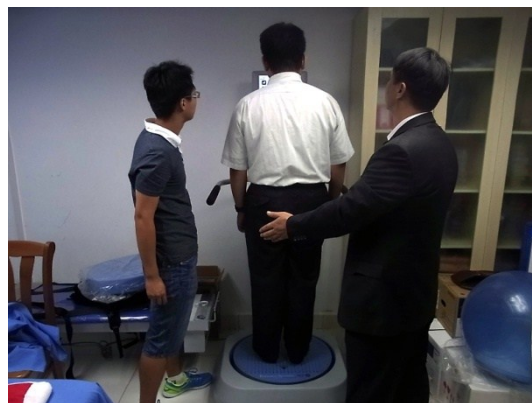


図 20 体育運動学院での施設見学②

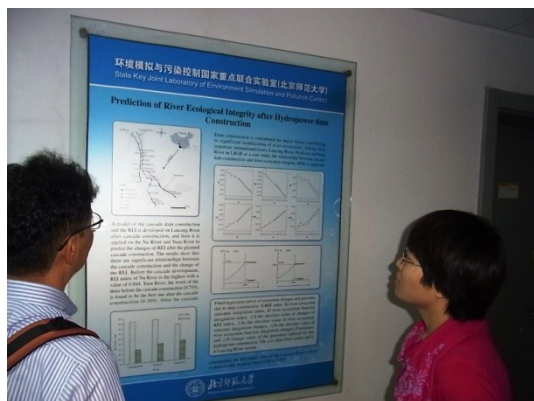


図 21 環境学院での施設見学



図 22 化学学院での施設見学